

第1回 昭島市事務事業外部評価委員会

議事要旨

〔日 時〕 平成24年6月27日（水）18：55～20：00

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

座間康臣委員長、佐久間榮昭副委員長、出雲明子委員、松本智子委員、村上龍男委員、和田篤彦委員

2 事務局

北川市長、早川企画部長、佐藤企画政策室長、板野財政課長、柳企画調整担当主査、多田企画調整担当主事、吉野財政係主事

3 傍聴者 0名

〔配布資料〕

- ・第1回事務事業外部評価委員会 次第
- ・事務事業評価の概要について（資料1）
- ・平成24年度 外部評価候補事業一覧（資料2）
- ・平成24年度 外部評価候補事業 内部評価シート（資料3）
- ・平成24年度 外部評価候補外事業一覧（資料4）
- ・事務事業外部評価委員会委員名簿（資料5）
- ・事務事業外部評価委員会要綱（資料6）
- ・平成24年度 外部評価委員会実施予定（資料7）

〔議事要旨〕

1 市長あいさつ

外部評価の実施にあたり、委員会設置の趣旨や委員への期待が述べられた。

2 委嘱状交付

市長より各委員に委嘱状が交付された。

3 自己紹介

各委員及び事務局職員の紹介が行われた。

4 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長に座間委員、副委員長に佐久間委員が選出された。

5 事務事業評価の概要について

6 外部評価候補事業について

事務局より、市の事務事業評価の概要及び平成24年度外部評価実施事業の選定等について説明が行われた。

《質疑応答》

◆外部評価の目的として、説明にあった予算編成につなげていくこと以外に、事務事業を執行する職員に直接市民感覚を伝えていくことを私は重視している。よって各部まんべんなく対象とすることを委員会のコンセンサスとしていただきたい。昨年度は、予算規模の順や市民の関心度が高いものから選定するなどの意見が出ており、それも重要ではあるが、その大前提として各部1事業は実施することをお願いしたい。【和田委員】

○昨年度の選定にあたっては、事務局としてはそのような視点を持っていた。今年度も委員の皆さまには各部まんべんなく対象とできるような選考をお願いしたい。【事務局】

◆私も全く賛成である。職員の皆さんも市民ではあるが、やはり仕事をする上では広く市民意見を理解してほしいので、和田委員のご意見には賛成したい。【村上委員】

◆先ほどの事務局の説明では、広く候補外事業の中からも選定可能とのことだったので、委員の皆さんの選考にあたっては、ぜひそのような視点もお持ちいただきたい。【座間委員長】

◆資料2の候補事業一覧には企画部から生涯学習部までかなり多くの事業が並んでおり、今年度外部評価できない事業は来年度以降に実施するというのか。今年度半分程度の部を実施したら、来年度に残り半分の部を実施するのかと考えていたが、今年度全ての部を通して実施して、それで委員会は終わりということか。【佐久間副委員長】

○今年度については15～20事業実施とご説明したが、様々な時間的制約を考えると、候補事業として挙げた事業を全て外部評価するのは何年かかっても難しいと考えている。委員の皆さまのご意見をお聞きしてどの事業を優先するか決めていき、残りの事業については当然内部評価をきちんと行っていきたいと考えている。それから、外部評価をいつまで実施するかについては、現時点では決めていない。当初の事務局の試案としては、3年程度は継続して実施したいと考えていたが、今後については評価を行っていく中で、委員の皆さまのご意見も踏まえて考えていきたい。【事務局】

◆外部評価のやり方としては、広く浅く評価するか、少ない事業を深く評価するか、という考え方があると思うが、狭く深くとすると全く評価しない事業も出てきてしまうので、どちらがいいのか。【佐久間副委員長】

○資料2や資料4に区分欄を設けて「事業」「管理」「経費」と記載しているが、「経費」は行政の内部経費、「事業」は市民サービスを中心とした事業費、「管理」は建物等の維持管理経費である。今の外部評価の視点だと、選定されるのはおのずと「事業」に関する経費が中心になってくるのではないかと考えている。「経費」は政策的な意味合いが少ない部分もあるので、将来的にはどうするか考えていく必要はあるが、今年度は外部評価の本格実施初年度ということで、時間的な制約もある中で15～20事業実施予定としたところである。【事務局】

7 その他

事務局より、委員会の内容については原則公表とすること及び今後の委員会の日程について説明が行われた。

《質疑応答》

- ◆1つは選定基準についての意見だが、ある程度テーマを設定して選定してもよいのではないか。例えば、今防災という視点は非常に重要であり、市民の関心も高いところであるので、今年度は防災に関する事業をいくつか選定しようということなど年度ごとに特徴的な事業があってもいいのではないか。それを各委員個人の選定の中で織り込んでもらい、次回議論できればいいのではないかと感じた。もう1つは、昨年度の議事要旨を改めて読み返してみても、委員の意見の中で「公平性」という言葉がよく出てきていた。今年度は内部評価について基準を改めたとのことだが、どこかの評価に公平性という概念は入り込んでいるのか。市民目線で公平性とはどういうことかということは大変難しく、自分でも整理がついていないが、委員の評価にあたっては、公平性という視点も考えてもよいのではないか。【和田委員】
- ◆1点目については、補助金事業との関連もあるのではないかと。【座間委員長】
- 1点目については、事業の選定をする中で、当然市民の関心が高いものを対象としていくというのは1つの考え方であるので、そのような視点に基づいた委員の皆さまのご意見を事務局で取りまとめて一覧とさせていただき、次回議論していただければと考えている。また、補助金事業については、これまで補助金等適正化委員会でご審議いただいていたが、今後外部評価を行う中でどのように補助金事業の見直しに取り組んでいくかは課題であると現在考えている。事業の選定にあたっては補助金事業を対象外とする考えはないので、幅広く選定をお願いしたい。2点目の公平性については、行政としては重要な視点の1つである。ただ、内部評価についてはもう既に実施しているため、来年度に向けて検討させていただきたいと考える。外部評価については、次回の委員会で、ある程度統一した評価ができるような基準についてご審議いただきたいと考えており、その際に公平性の視点についてもご議論いただきたい。事務局でもどのように公平性の視点を織り込むことができるのか、検討させていただきたい。【事務局】
- ◆そもそも行政に公平性が欠けているということはあるのか。行政は基本的に法律や条例に基づいて仕事をしているはずなのに、公平性が担保されていないということはあるのか。【村上委員】
- 行政が施策を展開するにあたって、公平であるということは当然必要なことだが、何が公平であるかについては、様々な捉え方、考え方はあると考える。市民から見て、全体的に行政の判断が公平であるかどうかという大きな視点も大切であると考えている。【事務局】
- 昨年度のご議論で何度か出てきた受益者負担の考え方なども、公平性に関連している部分である。基本的にこれからの地方自治は、限られた財源の下で、市民総意で自立して運営していかなければならないという状況であり、法律等で細かく定められた事業については外部評価は馴染まないだろうということで候補から外させていただいているが、委員の皆さまにはこういった地方自治の現状も踏まえてご議論いただければと考えている。【事務局】
- ◆行政において公平性は非常に重要な視点である。例えば施設建設などでも、様々な施設が整備される

地区もあれば、整備が遅れる地区もあるということでは、当然市民から見て公平でないということになる。行政の取組にあたっては、公平性の視点は必ず必要であると考えます。【佐久間委員】

◆他にご意見がなければ、次回は7月12日（木）午後6時30分からの開催とさせていただきます、本日は終了とする。【座間委員長】

～閉会～